2024 年 2 月 8 日
角山　智

資産運用レポート：表が出れば勝ち、裏が出てもちょい負け

１ はじめに

皆さんはバリュー投資家のモニッシュ・パブライをご存知でしょうか。我が国ではほとんど知られていない存在ながら、傑出した投資家として、米国ではその名をとどろかせています。

彼の旗艦ファンドは、Ｓ＆Ｐ５００指数が１５９％のリターンだった２０００年から２０１８年の間に１２０４％という驚異的な数字をたたき出しました。

近年まれな投資の名著『一流投資家が人生で一番大切にしていること』にも、トップバッターとして登場します。本書で述べられている、パブライの重要な原則は次の６つです。

（１）忍耐をもって厳しく選別し、買わない決断ができる
（２）市場の気まぐれな上下の振れを活用する
（３）企業の本質価値よりはるかに安い株を買う
（４）「自分が理解できる範囲」に収まる企業に投資する
（５）むずかしすぎるものは避ける
（６）値下がりリスクのわりに値上がり期待が甚大な、値付けのずれた株を少数選んで投資する

その中で最も重要な原則が６番目です。パブライは値上がり期待の大きさが値下がりリスクをゆうに超えている投資を好み「表が出れば僕の勝ち、裏が出れば君の負け」をもじって「表が出れば僕の勝ち、裏が出てもちょい負け程度」と表現していました。

本書やパブライの自著『ダンドーのバリュー投資』には「表が出れば僕の勝ち、裏が出てもちょい負け程度」の事例が掲載されています。しかしながら、いずれも米国企業であり、私たち日本人にはピンきません。

そこで我が国にも同様の投資チャンスはなかったのか調べてみたところ、類似するものがいつくか見当たりました。

今回の資産運用レポートでは、日本株における「表が出れば僕の勝ち、裏が出てもちょい負け程度」の代表的な事例を５つ紹介します。